

食品と容器に分離し減容・資源化を実現、洗浄粉碎機&洗浄脱水機でSDGsに貢献

食品業界ではフードロスや廃棄物削減、さらにはSDG's達成に向けたマインドが着実に上昇しているが、同時に期限切れ食品や不良品容器の処理方法や中身と容器の効率的な分離方法の確立が喫緊の課題となりつつある。

廃プラスチックのリサイクル機器メーカーの**日本シーム**は、そういった課題の有効なソリューションとして簡易分離装置「**ブンリィ**」(写真)、容器を再利用しやすいチップ化まで洗浄粉碎する「**プラセン**」の2機種をラインナップし注目を集めている。

ブンリィは、飲料パック・ゼリー等の

食品を内容物と容器に簡易分離する装置で、高速回転の遠心分離により瞬時に分離が可能。優れたコストパフォーマンスを実現している。清掃性・メンテナンス性を重視した構造でON/OFFのみの簡易操作と安全設計が特長。期限切れ・不良品等の食品と容器の有効資源化が可能なことに加え、人件費や処理コストの削減、さらには機密保持にも貢献する。

一方の**プラセン**は当社が得意とする洗浄粉碎機および洗浄脱水機を、従来の性能はそのままに省エネ・省スペース化したもの。処理物を洗浄しながら粉碎し、強力脱水を経ることで高品質なマテリア

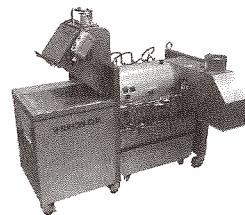


写真 **ブンリィ**(日本シーム)

リサイクルを実現する。

同社では自社ショールームに実機を常設し、リサイクルとSDGsを高効率にサポートするソリューションとして拡販を図っている。